

分野別成果動向一覧 第3章「環境・市民生活」

《施策別成果動向一覧》

節	番号	施策名	成果動向	まちづくり指標の推移						成果指標の推移							
				対基準値			対前年度			対基準値			対前年度				
				改善	横ばい・維持	悪化	改善	横ばい・維持	悪化	改善	横ばい・維持	悪化	比較不可	改善	横ばい・維持	悪化	比較不可
環境保全	18	空気がきれいで住みやすい環境を保全する	横ばい	1	0	1	1	0	1	4	3	2	0	6	2	1	0
	19	生活排水を適切に処理する	順調	1	0	0	0	0	1	4	0	0	0	3	0	1	0
ごみ処理	20	まちの環境美化を推進する	順調	1	0	0	1	0	0	1	0	1	0	2	0	0	0
	21	ごみの減量化とリサイクルを推進する	順調	1	0	1	1	0	1	4	0	1	0	4	0	1	0
防災	22	市民と市が一体となって災害に備える	横ばい	1	0	0	0	0	1	6	0	0	0	1	0	5	0
交通安全・防犯	23	交通事故や犯罪のない安全で安心なまちをつくる	順調	1	0	0	0	0	1	4	0	0	0	2	0	2	0
消防・救急	24	消防・救急体制を充実させる	順調	1	0	0	0	0	1	3	0	1	0	4	0	0	0

《まちづくり評価委員会の評価》

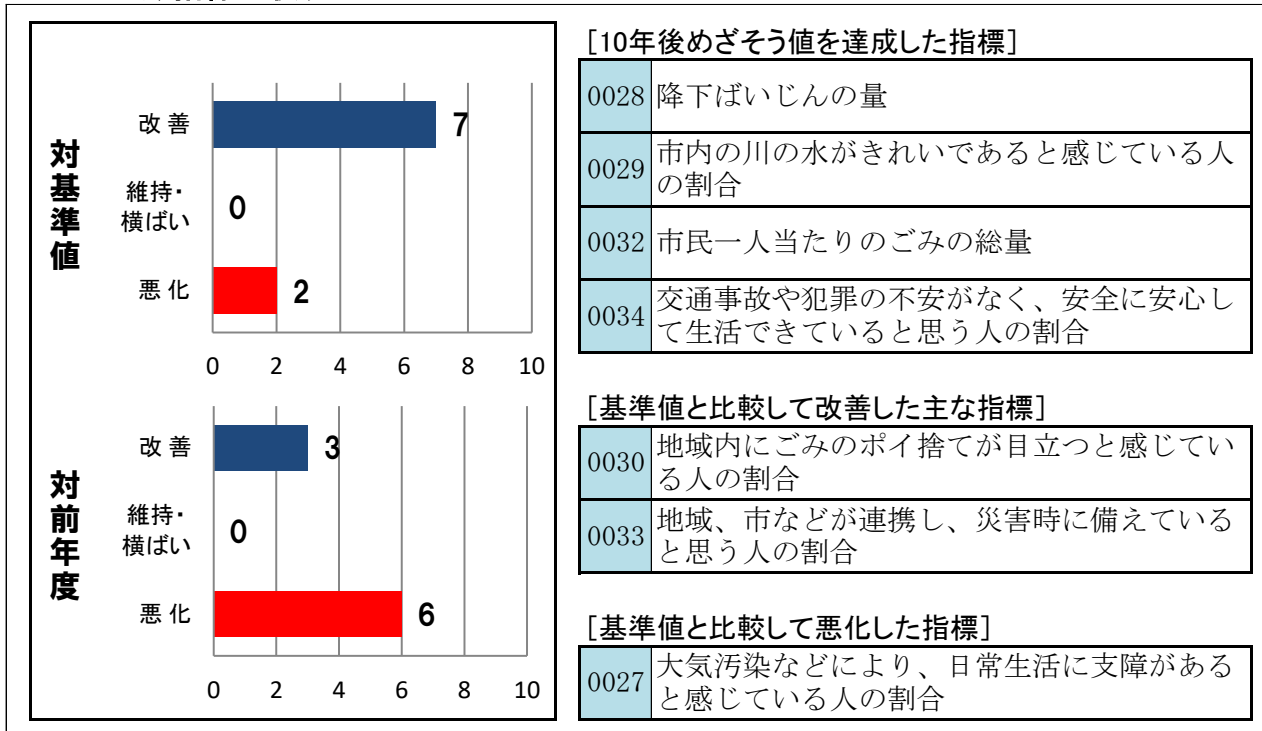
「環境・市民生活」分野では、まちづくり指標等の動向から判断して、施策の成果動向は、「順調」が5施策、「横ばい」が2施策となり、分野全体の成果動向は、「順調」であると評価する。

防災力の向上に関して、平時からの市民の防災意識の向上を図るため、市民に対して継続的に啓発を実施するとともに、地域における自主防災組織や地域防災リーダーなどが活発に活動できるよう、防災訓練やリーダー育成事業において意識向上につながる事業内容の検討が必要である。

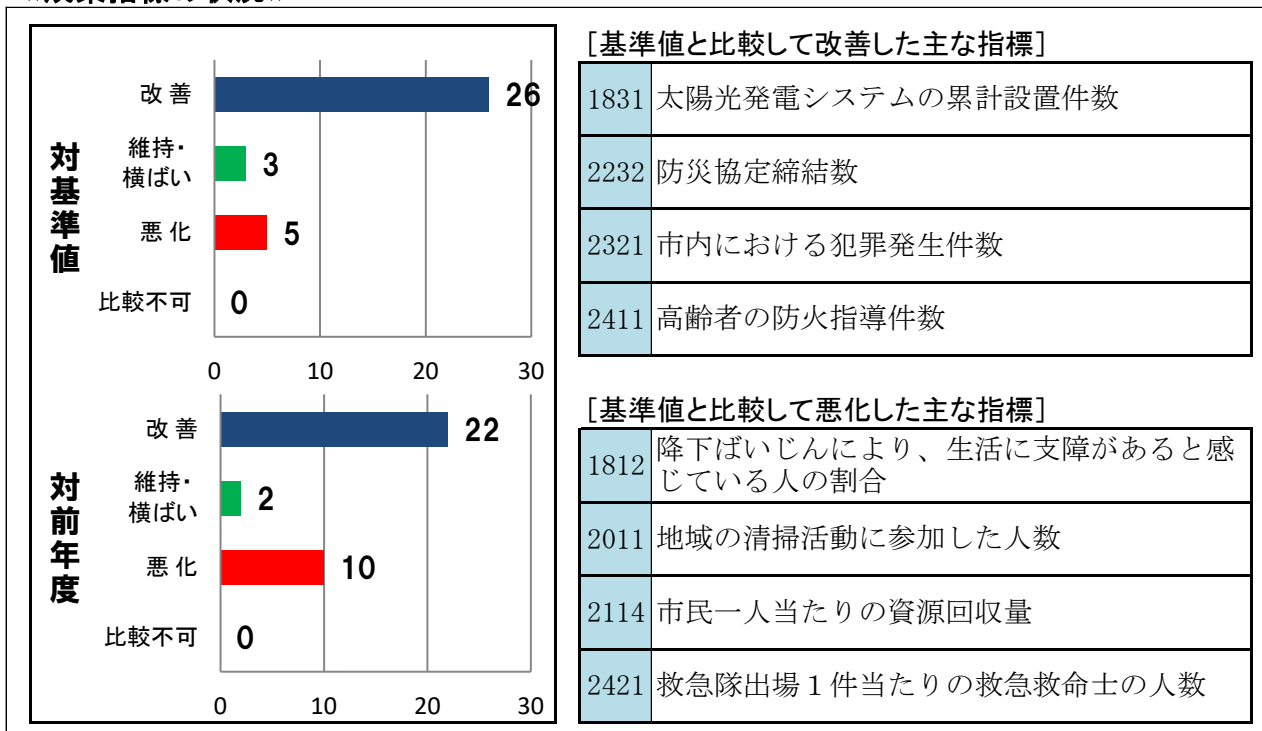
また、安心安全なまちづくりに関して、自転車運転について警察と連携して講習会などによりマナー向上を図る必要がある。

- [施策18] まちづくり指標、成果指標の動向から「横ばい」と評価する。
- [施策19～21] まちづくり指標、成果指標の動向から「順調」と評価する。
- [施策22] まちづくり指標、成果指標の動向から「横ばい」と評価する。
- [施策23・24] まちづくり指標、成果指標の動向から「順調」と評価する。

《まちづくり指標の状況》



《成果指標の状況》



《第3章「環境・市民生活」指標の状況》

【まちづくり指標】「降下ばいじんの量」はじめ4指標が10年後めざそう値（R5(2023)）を達成したほか、「地域内にごみのポイ捨てが目立つと感じている人の割合」など、基準値と比較して7指標、分野全体で77.8%が改善した。

一方、基準値以下となった指標は「大気汚染などにより、日常生活に支障があると感じている人の割合」はじめ2指標（22.2%）となった。

【成果指標】「太陽光発電システムの累計設置件数」はじめ26指標、分野全体で76.5%が基準値より改善した。また、基準値以下となった指標は、5指標（14.7%）で、前年度より悪化した指標は、10指標（29.4%）となった。

章 03 環境・市民生活
 節 01 環境保全

理念 安心

施策 18 空気がきれいであり住みやすい環境を保全する

施策主管課【生活環境課】

めざすまちの姿

大気汚染、ばいじん、悪臭がなく、空気がきれいである

施策の基本方針（総合計画から抜粋）

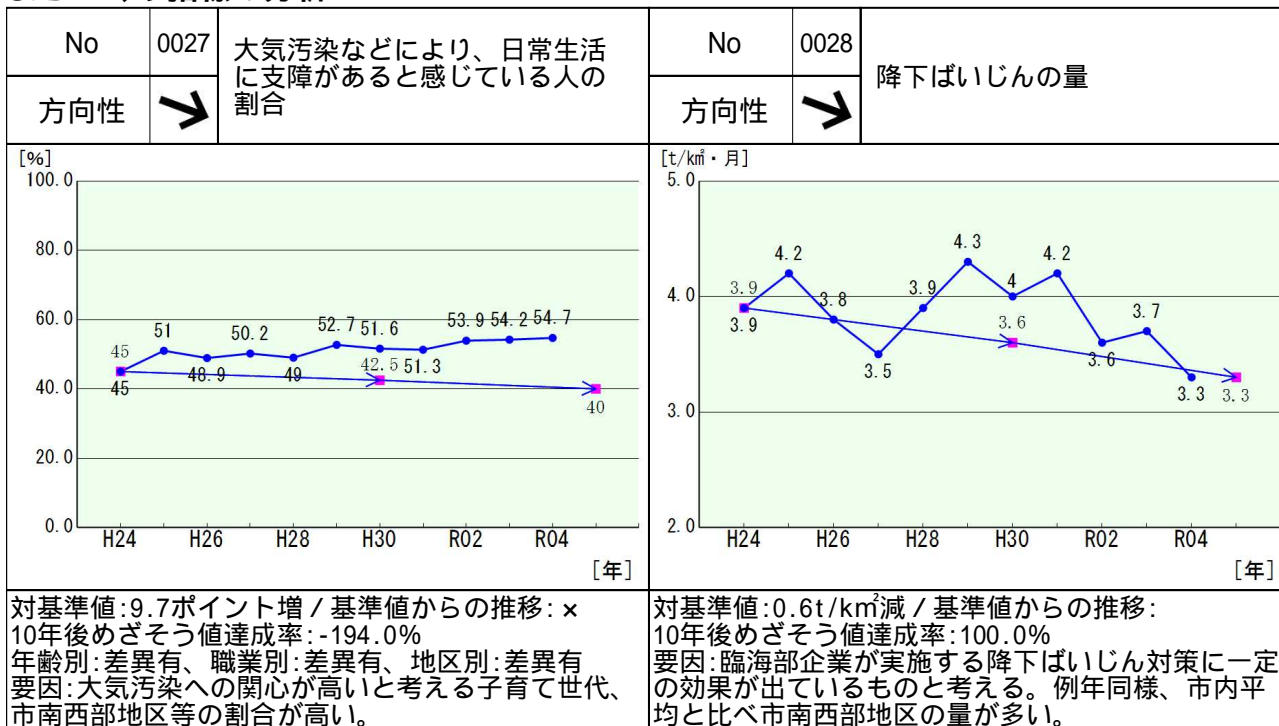
常時、大気汚染の状況を監視するとともに、市民、事業者などと協力して、環境への負荷の少ないライフスタイルの実践や省エネ型機器・低公害車などへの切替え、再生可能エネルギーの一層の活用を図り、大気汚染の改善に努めます。
 また、生活から発生する騒音や悪臭の発生抑制に向けた啓発と事業所からの発生要因の低減に努めるとともに、さまざまな事業所と協力して市南西部を中心に降下ばいじんの削減に取り組めます。これらの環境問題や環境に対する関心を高めるとともに、身近な自然の大切さを理解させる教育と学習の機会を充実し、環境保全活動の推進に努めます。

施策実現のための財源投入状況

（単位：千円）

単位施策名称		R04年度予算	R04年度決算
01	きれいな空気を守る	36,577	35,149
02	悪臭・騒音の発生を抑制する	1,538	988
03	再生可能エネルギーを活用する	523,781	521,801
04	環境教育を推進する	808	587
施策合計		562,704	558,525

まちづくり指標の分析



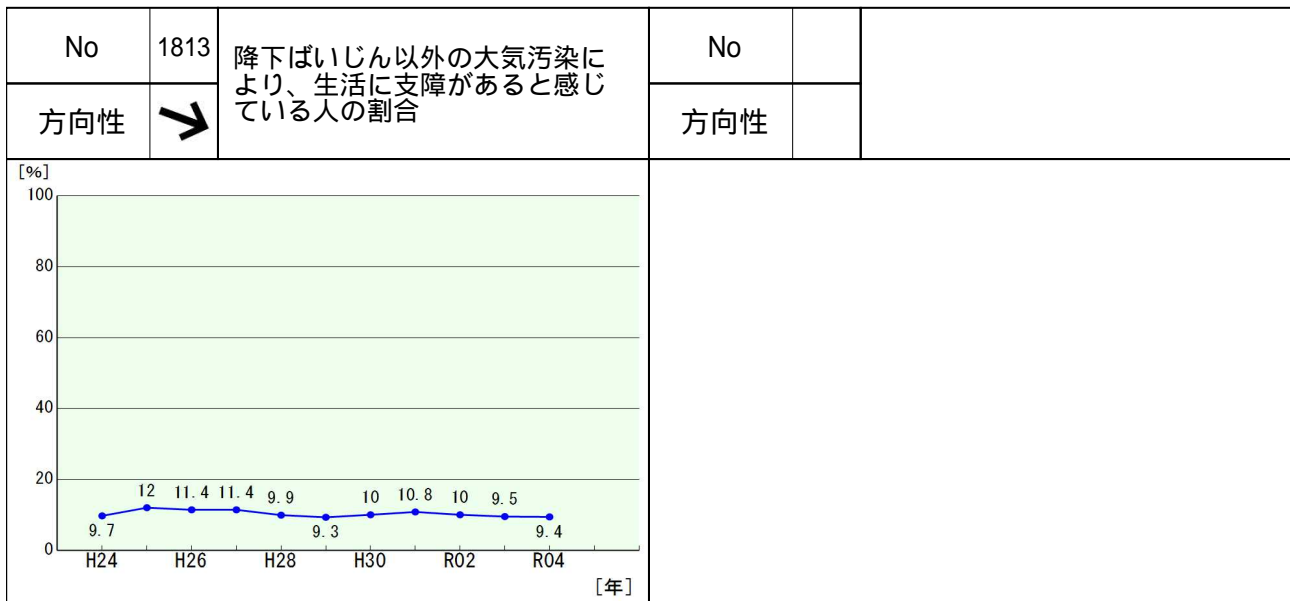
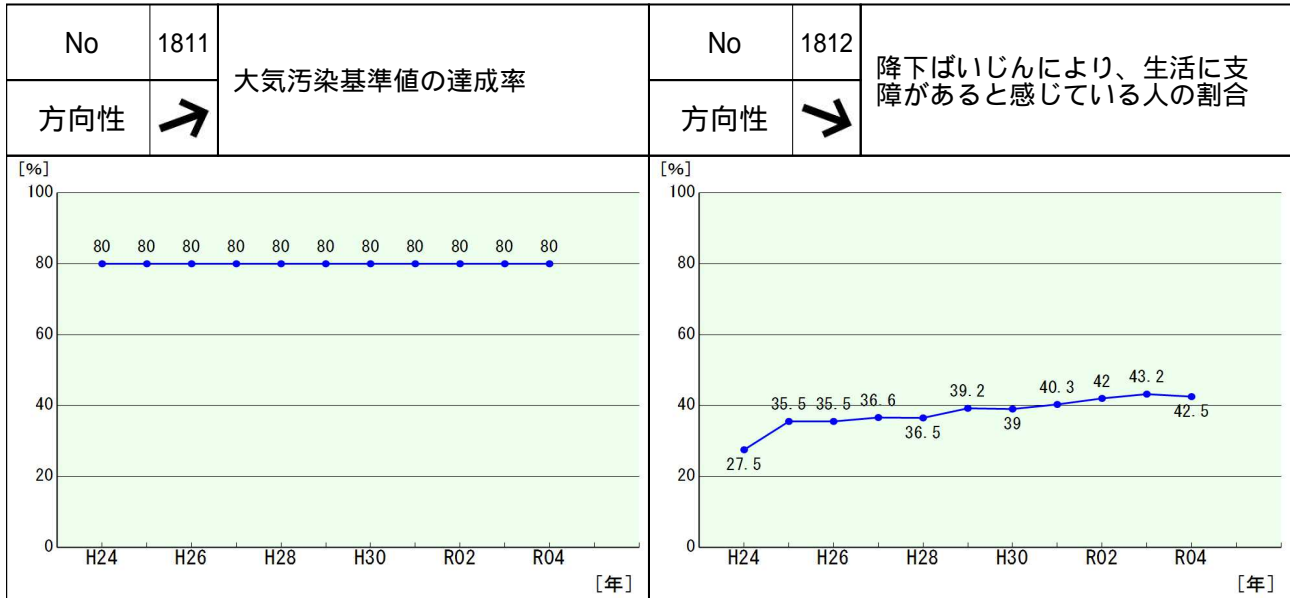
めざすまちの姿に向けた達成度及び施策の評価

施策の成果動向は、横ばいと評価する。
 「降下ばいじんの量」は、基準値から0.6t/km²改善し、10年後めざそう値を達成した。
 一方で、臨海部企業では降下ばいじん対策が進められているが、「大気汚染などにより、日常生活に支障があると感じている人の割合」は、基準値から9.7ポイント増加し、特に市南西部で高い割合にあることから、市民の実感に結びついていないと考える。
 今後は、降下ばいじんが市内平均と比べ多い市南西部の数値改善に向けて、引き続き事業所に対し効果的な対策を要望していく。また、市の広報等で事業所の対策状況を市民に伝えるとともに、事業所に環境対策の実施状況、将来計画等の一層の公開を要望する必要がある。

施策 18 空気がきれいであり住みやすい環境を保全する
 単位施策 01 きれいな空気を守る

単位施策主管課【生活環境課】

成果指標の推移



単位施策の評価

単位施策の成果動向は、順調でないと評価する。

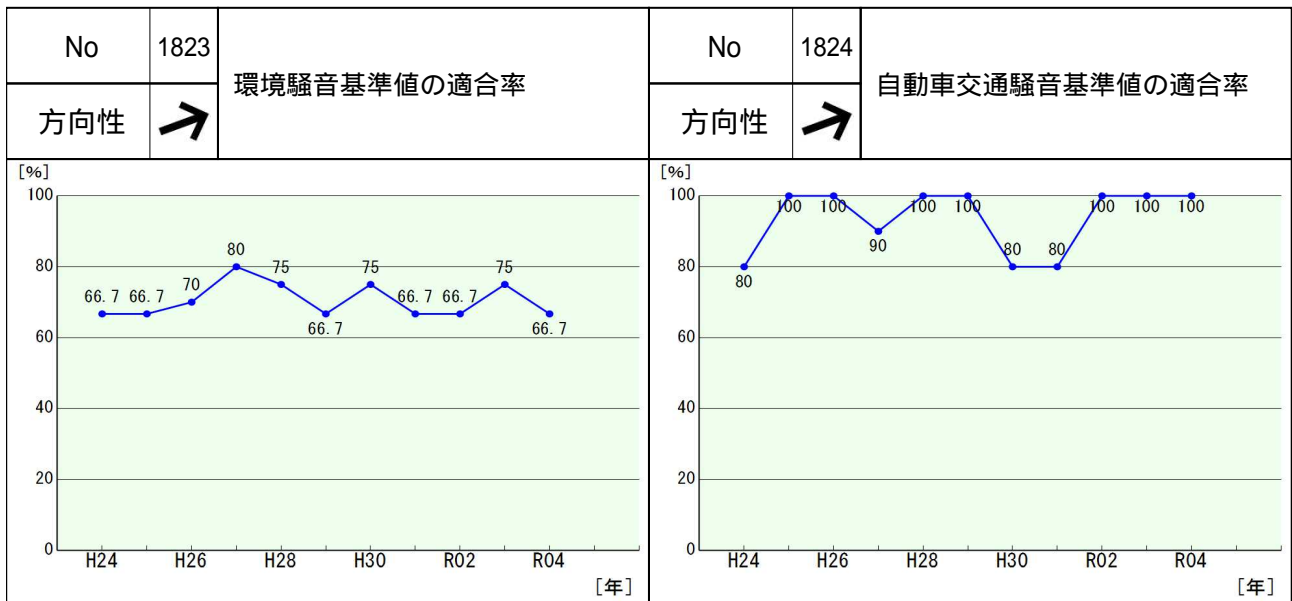
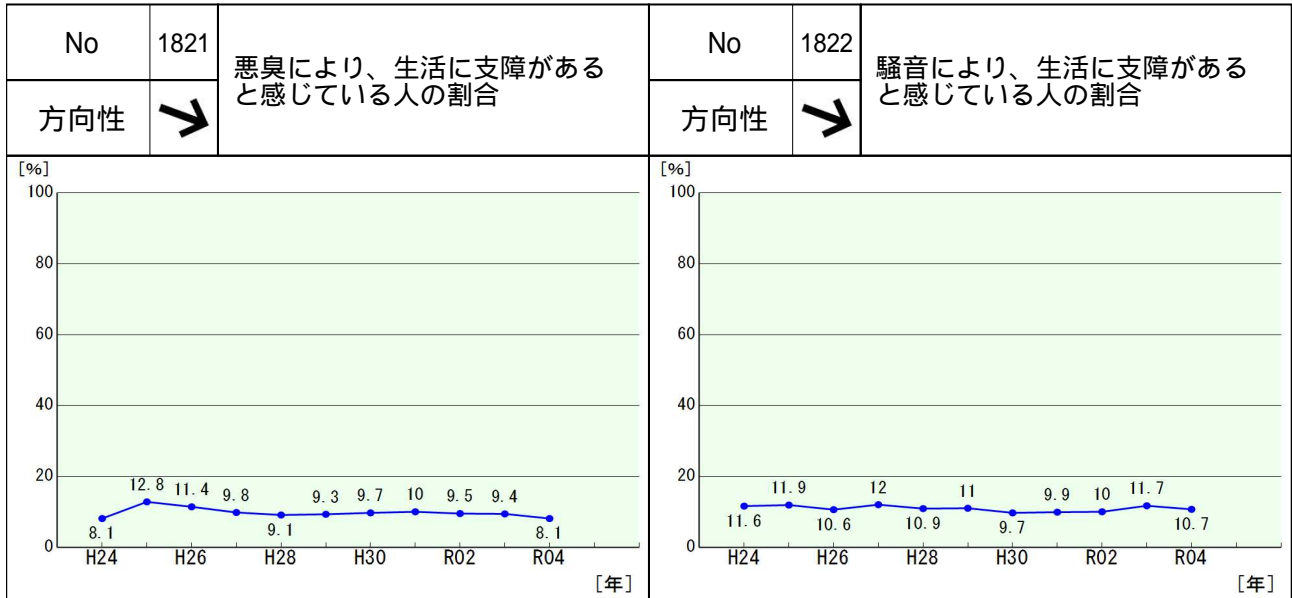
「降下ばいじんにより、生活に支障があると感じている人の割合」は基準値から15.0ポイント増加しており、降下ばいじんに関心が高いと考える子育て世代及び市南西部地区の割合が高くなっている。降下ばいじん量が基準値から改善しているにも関わらず、割合が大きく増加している理由として、市民にとって生活上で改善した実感に結びついていないこと及び環境問題への関心の高まりによるものと考えられる。

今後も、県や事業所と情報共有を図りながら、より効果的な対策の実施を事業所に要望し、市民の実感に結びつくよう降下ばいじんを低減させる取り組みを進めていく必要がある。

施策 18 空気がきれいであり住みやすい環境を保全する
 単位施策 02 悪臭・騒音の発生を抑制する

単位施策主管課【生活環境課】

成果指標の推移



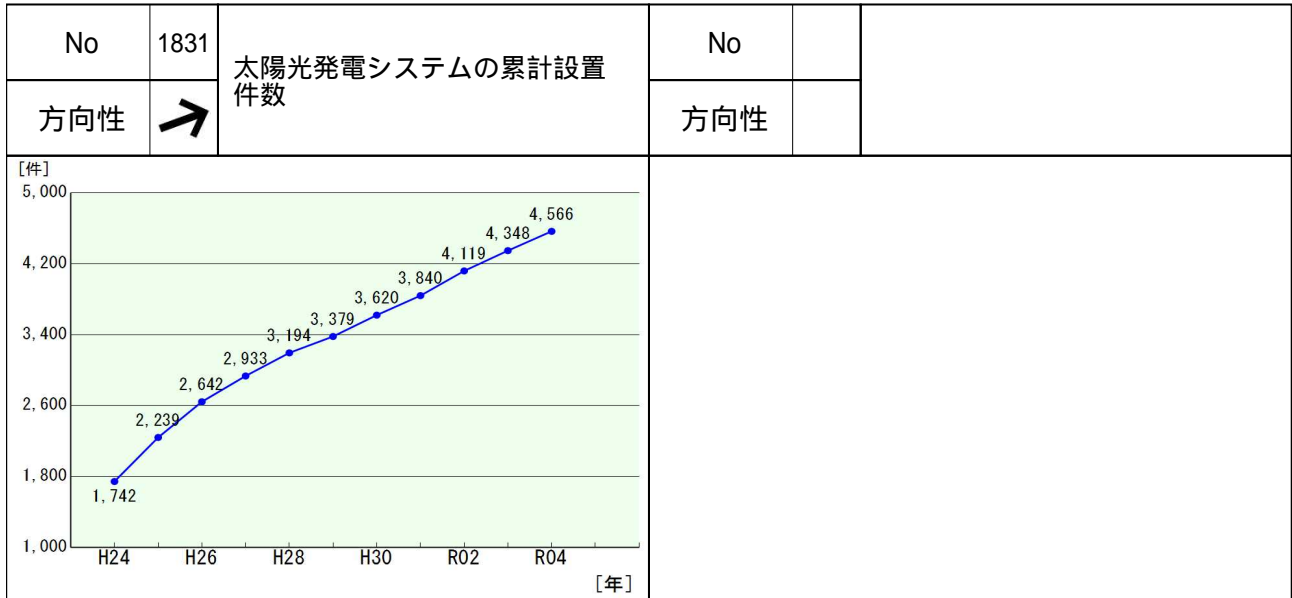
単位施策の評価

単位施策の成果動向は、横ばいと評価する。
 成果指標について、基準値と比較して改善が2指標、横ばいが2指標となっている。「騒音により、生活に支障があると感じている人の割合」は基準値より改善しているが毎年度増減を繰り返しており、多くの工場が立地している緑陽地区など北部の学区において支障があると感じている人の割合が高い。
 今後も引き続き、騒音を発生させる工場等への立入調査などの監視を続けるとともに、発生源の特定などの分析を行い、発生源が判明した場合には適切な指導を行っていく。また、数値が悪い地域に重点をおいて、生活マナー向上などの啓発活動を実施していく必要がある。

施策 18 空気がきれいであり住みやすい環境を保全する
 単位施策 03 再生可能エネルギーを活用する

単位施策主管課【生活環境課】

成果指標の推移



No		No	
方向性		方向性	

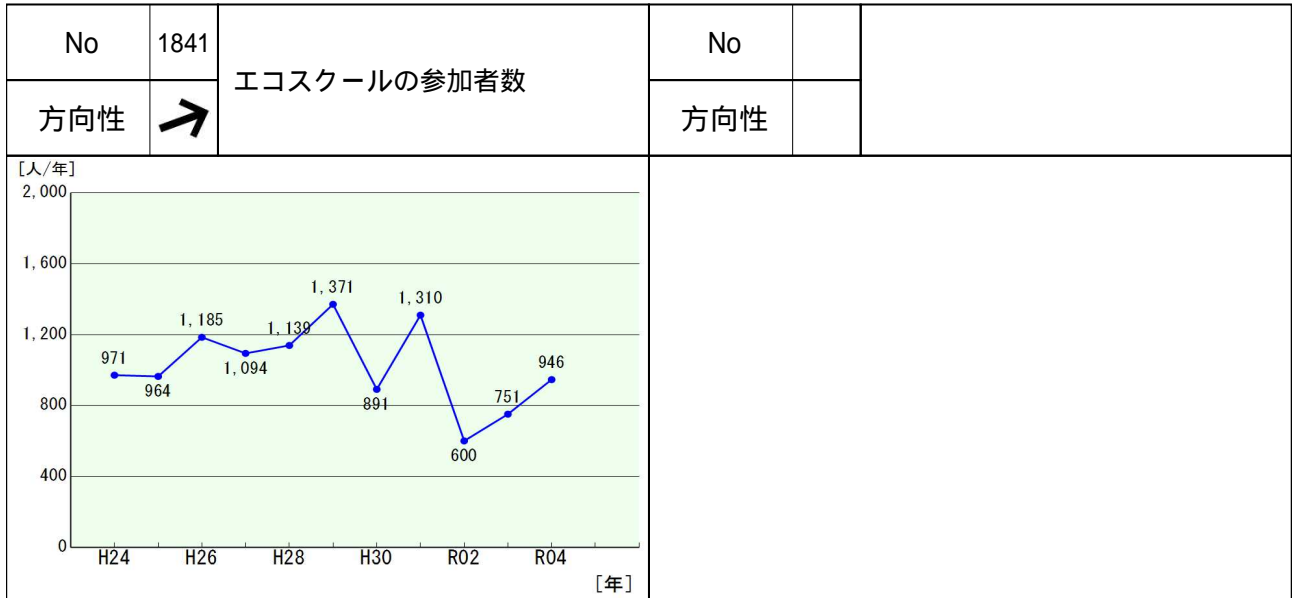
単位施策の評価

単位施策の成果動向は、横ばいと評価する。
 成果指標は、基準値から2,824件、前年度から218件増加したものの、前年度からの増加件数は過去5年で最も少なかった。電気料金の値上がりが続ぎ、再生可能エネルギーの導入に対する関心は高まっていると考えられるが、FIT制度（固定価格買取制度）による買取価格の低下や、大規模な宅地開発がなかったことにより、増加件数が減少したと考える。
 今後は、地球温暖化対策実行計画（区域施策編）の公表に向け、市のイベント等において再生可能エネルギーの導入や省エネルギー化に関する啓発を行うことで、市民や事業者の温室効果ガス排出量削減に対する意識の向上に努めていく。

施策 18 空気がきれいであり住みやすい環境を保全する
 単位施策 04 環境教育を推進する

単位施策主管課【生活環境課】

成果指標の推移



No		No	
方向性		方向性	

単位施策の評価

単位施策の成果動向は、横ばいと評価する。
 成果指標は、基準値から25人減少したが、前年度からは195人増加している。この理由は、新型コロナウイルス感染症の影響により引き続き講座の定員制限を行った一方で、感染防止対策を徹底し、秋まつりにて環境ひろばを実施したことや、温暖化対策として電気自動車の講座などの新規講座を実施したことによるものと考えられる。
 今後は、新型コロナウイルス感染症の影響の低下に伴い、定員制限の見直しを検討するとともに、SDGs、地球温暖化対策など、世界全体で取り組みが進み市も推進する内容の講座をより一層開催し、参加者数の増加及び啓発を進展させる必要がある。

章 03 環境・市民生活
 節 01 環境保全
 施策 19 生活排水を適切に処理する

理念 安心

施策主管課【都市計画課】

めざすまちの姿

下水道が整備され、生活排水が適切に処理されて、川や海などの水がきれいである

施策の基本方針（総合計画から抜粋）

下水道の整備を進めて、処理区域の拡大を図るとともに、普及・啓発を行うなど、下水道接続率を高めます。
 河川や浄化センターからの放流水の定期的な測定を行い、水質を監視します。

施策実現のための財源投入状況

（単位：千円）

単位施策名称		R04年度予算	R04年度決算
01	下水道を整備して汚水を処理する	879,402	837,648
02	水質を監視する	1,485	1,298
施策合計		880,887	838,946

まちづくり指標の分析

No	0029	市内の川の水がきれいであると 感じている人の割合	No																	
方向性	➔		方向性																	
<table border="1"> <caption>まちづくり指標の分析データ</caption> <thead> <tr> <th>年</th> <th>割合 [%]</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H24</td><td>26.4</td></tr> <tr><td>H26</td><td>29.2</td></tr> <tr><td>H28</td><td>30.5</td></tr> <tr><td>H30</td><td>29.7</td></tr> <tr><td>R02</td><td>30.8</td></tr> <tr><td>R04</td><td>31.6</td></tr> <tr><td>R04</td><td>30.9</td></tr> </tbody> </table>					年	割合 [%]	H24	26.4	H26	29.2	H28	30.5	H30	29.7	R02	30.8	R04	31.6	R04	30.9
年	割合 [%]																			
H24	26.4																			
H26	29.2																			
H28	30.5																			
H30	29.7																			
R02	30.8																			
R04	31.6																			
R04	30.9																			
<p>対基準値：4.6ポイント増 / 基準値からの推移： 10年後めざそう値達成率：102.2% 年齢別：差異有、職業別：差異有、地区別：差異有 要因：基準値からの増加理由としては、下水道建設等の環境整備が影響していると考える。</p>																				

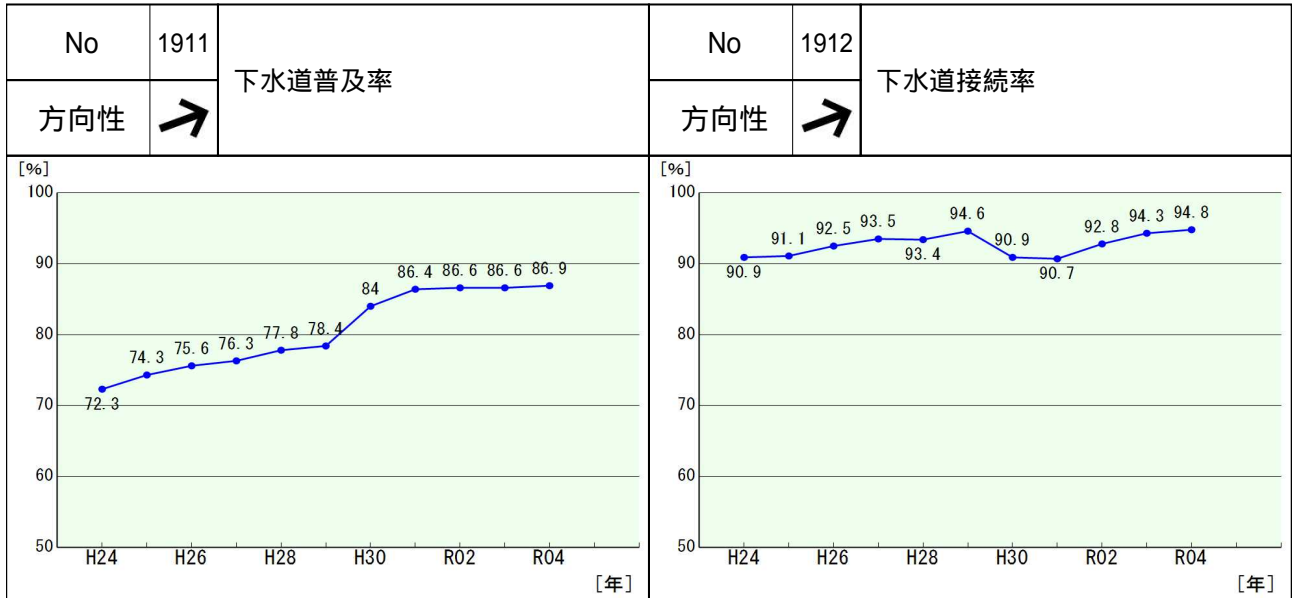
めざすまちの姿に向けた達成度及び施策の評価

施策の成果動向は、順調と評価する。
 まちづくり指標は、前年度から0.6ポイント減少しているものの、基準値からは4.6ポイント向上している。このことから、数値としては横ばい傾向であるが、高い数値で推移している。これは、市内での下水道の整備・普及が進んだことも影響していると考えられる。
 今後も、下水道整備の推進に合わせ、下水道への接続、水洗化への啓発活動や適切な汚水処理対策・水質改善対策に取り組んでいくとともに、定期的な水質調査の実施及び継続的な水質の監視を行っていく。

施策 19 生活排水を適切に処理する
 単位施策 01 下水道を整備して汚水を処理する

単位施策主管課【都市計画課】

成果指標の推移



No			No		
方向性			方向性		

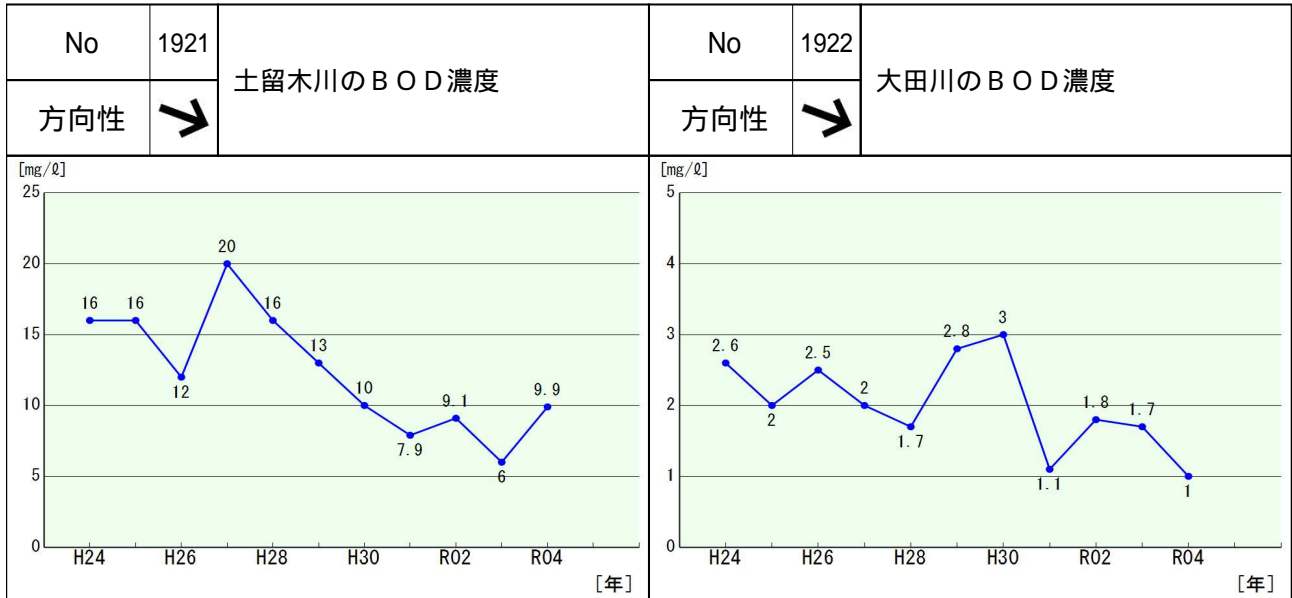
単位施策の評価

単位施策の成果動向は、順調と評価する。
 「下水道普及率」は、基準値から14.6ポイント向上している。これは、浅山新田地区が幹線へ接続し整備が進んだこと、下水道面整備（緑陽地区）等による本管工事等が進んだことが要因と考える。また、「下水道接続率」も、基準値から3.9ポイント向上している。これは、下水道に接続できる区域内において、下水道整備工事にあわせて行った啓発活動により、市民の意識が高まり、下水道への接続が進んだことが要因と考える。
 今後も、下水道整備を進めるとともに、下水道接続率向上のため助成事業及びその啓発活動を継続していく。

施策 19 生活排水を適切に処理する
 単位施策 02 水質を監視する

単位施策主管課【生活環境課】

成果指標の推移



No			No		
方向性			方向性		

単位施策の評価

単位施策の成果動向は、横ばいと評価する。
 「大田川のBOD濃度」は、下水道整備がすでに進んでいることから、基準値から改善した水準で継続的に推移している。一方で、「土留木川のBOD濃度」は基準値より改善しているが、前年度から悪化している。
 BOD濃度は天候や測定時期などの影響を受けることから、土留木川は周辺の下水道整備により一定の水質改善がされていると考えるが、今後の増減の推移を注視していく必要がある。また、これまでの傾向から下水道整備が水質の向上に寄与していると考えため、今後も下水道接続率の向上について、下水道供用開始区域の市民への啓発を進めていく必要がある。

章 03 環境・市民生活
 節 02 ごみ処理
 施策 20 まちの環境美化を推進する

理念 快適

施策主管課【生活環境課】

めざすまちの姿

まちにごみが落ちていない

施策の基本方針（総合計画から抜粋）

市民や事業者の取り組みにより、生活環境を守っていく意識を高めるとともに、ごみのポイ捨てや不法投棄、放置自動車などをなくすことに努めます。
 また、地域の清掃活動など、環境美化への取り組みを支援します。

施策実現のための財源投入状況

（単位：千円）

単位施策名称		R04年度予算	R04年度決算
01	まちをきれいにする	3,559	3,507
02	不法投棄を抑制する	126	95
施策合計		3,685	3,602

まちづくり指標の分析

No	0030	地域内にごみのポイ捨てが目立つと感じている人の割合	No		
方向性	➔		方向性		

年	割合 [%]
H24	58.3
H26	55.3
H28	51.4
H30	52.5
R02	50.5
R04	50.0

対基準値：8.1ポイント減 / 基準値からの推移：
 10年後めざそう値達成率：97.6%
 年齢別：差異有、職業別：差異無、地区別：差異有
 要因：道路などのごみの回収量が減少していることから、ごみのポイ捨て量が減少していると考え。

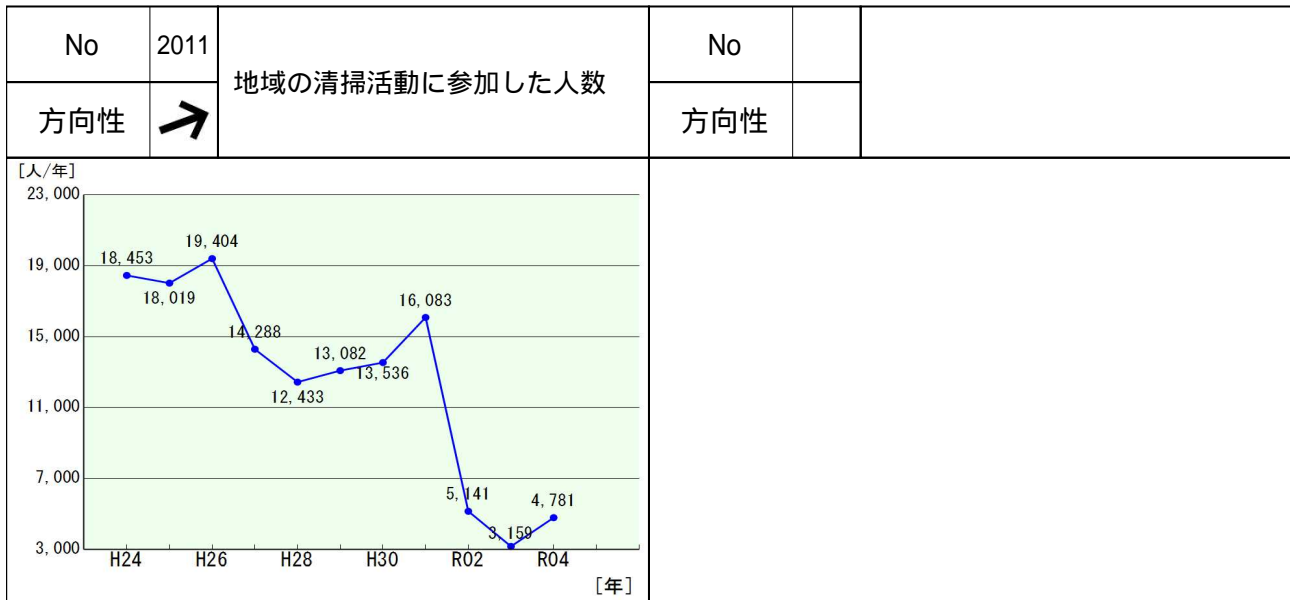
めざすまちの姿に向けた達成度及び施策の評価

施策の成果動向は、順調と評価する。
 まちづくり指標は、平成28年度以降は横ばい傾向であるものの、基準値から8.1ポイント改善している。単位施策の成果指標では、新型コロナウイルス感染症の影響で「地域の清掃活動に参加した人数」は、基準値から大幅に減少しているが、前年度と比べ改善している。また、「道路などのごみの回収量」も、環境意識の高まりに伴い、道路へのポイ捨て等によるごみが市内全体で減少している。
 今後は、新型コロナウイルス感染症の影響が薄れる中で、清掃活動の参加者数を元の水準に戻すため、より一層の地域美化活動の促進及び啓発活動を行っていく。

施策 20 まちの環境美化を推進する
 単位施策 01 まちをきれいにする

単位施策主管課【生活環境課】

成果指標の推移



No		No	
方向性		方向性	

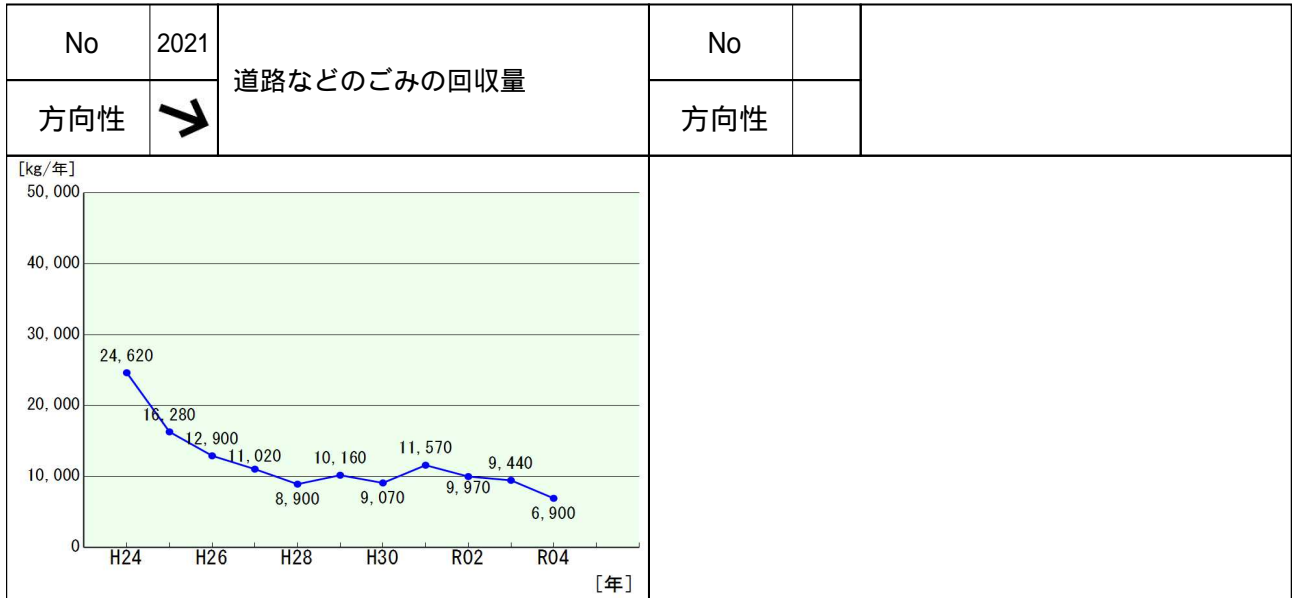
単位施策の評価

単位施策の成果動向は、横ばいと評価する。
 ゴミ散乱防止市民行動月間として、6月と9月に市内の清掃活動の啓発活動を実施したところ、多くの人が集まる清掃活動の実施に慎重になる団体や市民が多く、新型コロナ禍以前に比べて地域の清掃活動に参加した参加団体数や参加人数が減少し、基準値に比べ13,672人下回ったが、前年度と比べると新型コロナウイルス感染症の影響が薄れ1,622人増加した。
 今後は、環境美化活動への市民参加を促すため、より一層の活動団体への働きかけや環境美化に関する啓発活動を実施していく必要がある。

施策 20 まちの環境美化を推進する
 単位施策 02 不法投棄を抑制する

単位施策主管課【生活環境課】

成果指標の推移



No		No	
方向性		方向性	

単位施策の評価

単位施策の成果動向は、順調と評価する。
 成果指標は、基準値から17,720kg減少し、前年度からも2,540kg減少している。重量がかさむタイヤ、放置自転車等の大型ごみの回収数が減少していることや、清掃パトロールにおける道路ごみの発見頻度が減少していることから、清掃活動への啓発の成果が表れるとともに、市民の環境問題やリサイクルの意識向上により、不法投棄や道路へのごみのポイ捨てが減少したためと考える。
 今後も引き続き、ごみの不法投棄や放置自動車及び放置自転車が增加しないよう、市内道路などのパトロールを行うとともに、環境美化意識の向上に関する啓発活動を推進していく。

章 03 環境・市民生活
 節 02 ごみ処理
 施策 21 ごみの減量化とリサイクルを推進する

理念 快適

施策主管課【清掃センター】

めざすまちの姿

ごみの減量化やリサイクルが進んでいる

施策の基本方針（総合計画から抜粋）

循環型社会の形成を目指すため、市民、事業者などとの役割分担と協働による3R活動を進めます。
 また、ごみの適正な収集、一般廃棄物のごみ処理施設と最終処分場の適切な管理運営による施設の延命を図るとともに、新しい一般廃棄物処理施設などの整備を進めます。

施策実現のための財源投入状況

(単位：千円)

単位施策名称		R04年度予算	R04年度決算
01	3R活動を推進する	239,511	238,752
02	ごみを適切に処分する	1,496,489	1,474,105
施策合計		1,736,000	1,712,857

まちづくり指標の分析

No	0031	ごみ減量、リサイクルを心がけている人の割合	No	0032	市民一人当たりのごみの総量																												
方向性	➔		方向性	➔																													
<table border="1"> <caption>ごみ減量、リサイクルを心がけている人の割合 (%)</caption> <tr><th>年</th><td>H24</td><td>H26</td><td>H28</td><td>H30</td><td>R02</td><td>R04</td></tr> <tr><th>値</th><td>90.1</td><td>87.4</td><td>88.3</td><td>89.5</td><td>89.3</td><td>88.5</td></tr> </table>			年	H24	H26	H28	H30	R02	R04	値	90.1	87.4	88.3	89.5	89.3	88.5	<table border="1"> <caption>市民一人当たりのごみの総量 [g/人・日]</caption> <tr><th>年</th><td>H24</td><td>H26</td><td>H28</td><td>H30</td><td>R02</td><td>R04</td></tr> <tr><th>値</th><td>995</td><td>981</td><td>950</td><td>922</td><td>919</td><td>853</td></tr> </table>			年	H24	H26	H28	H30	R02	R04	値	995	981	950	922	919	853
年	H24	H26	H28	H30	R02	R04																											
値	90.1	87.4	88.3	89.5	89.3	88.5																											
年	H24	H26	H28	H30	R02	R04																											
値	995	981	950	922	919	853																											
対基準値:1.6ポイント減 / 基準値からの推移: 10年後めざそう値達成率:-32.7% 年齢別:差異有、職業別:差異有、地区別:差異有 要因:年齢別、職業別は30歳代以下、学生が低く、若年層の意識が低いと考える。			対基準値:142g減 / 基準値からの推移: 10年後めざそう値達成率:149% 要因:9割近い市民がごみ減量、リサイクルに心がけごみ削減に努めていることのほか、物価高やリユース市場の拡大が要因と考える。																														

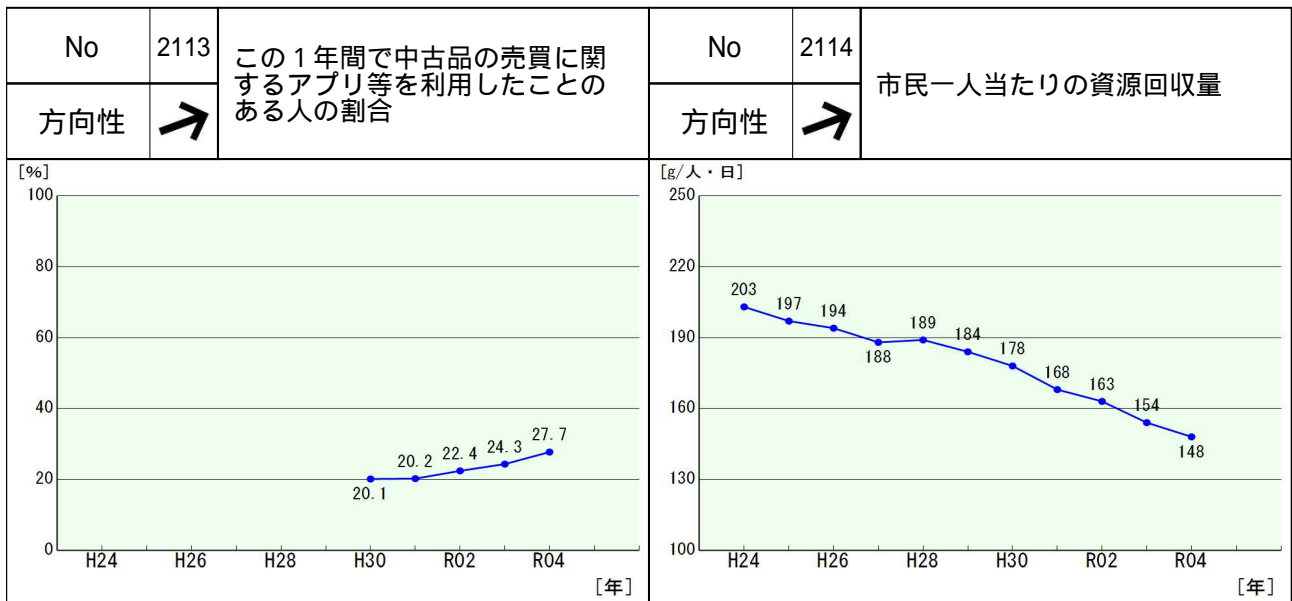
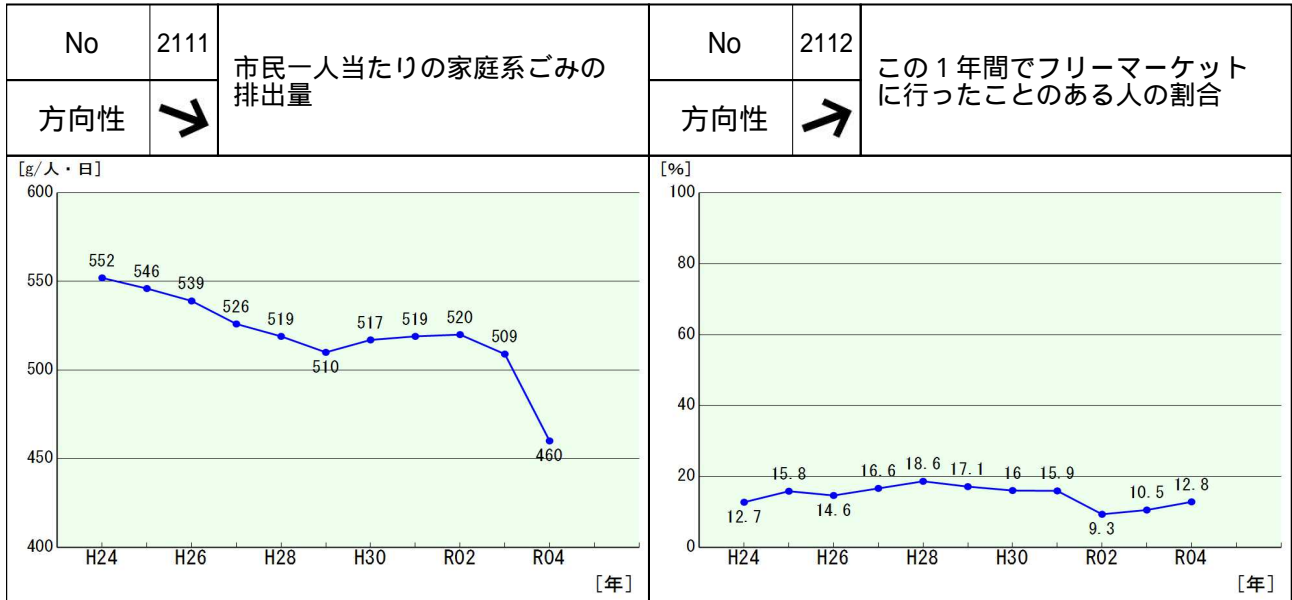
めざすまちの姿に向けた達成度及び施策の評価

施策の成果動向は、順調と評価する。
 「ごみ減量、リサイクルを心がけている人の割合」は、対基準値で1.6ポイント減少しているが、90%近くで推移しており、その結果として「市民一人当たりのごみの総量」は10年後めざそう値を達成している。資源ごみでは新聞の購読数の減少やテイクアウト需要の低下によるプラ容器的減少が、家庭系ごみでは家庭でのごみ減量の取り組みが要因と考える。
 今後も「東海なび」の「ごみの出し方」や「分別辞典」、ホームページの「ごみ分別検索」の活用や定期的な情報発信によりごみの分別を促すとともに、見やすく理解しやすい広報活動を実施していく。

施策 21 ごみの減量化とリサイクルを推進する
 単位施策 01 3R活動を推進する

単位施策主管課【清掃センター】

成果指標の推移



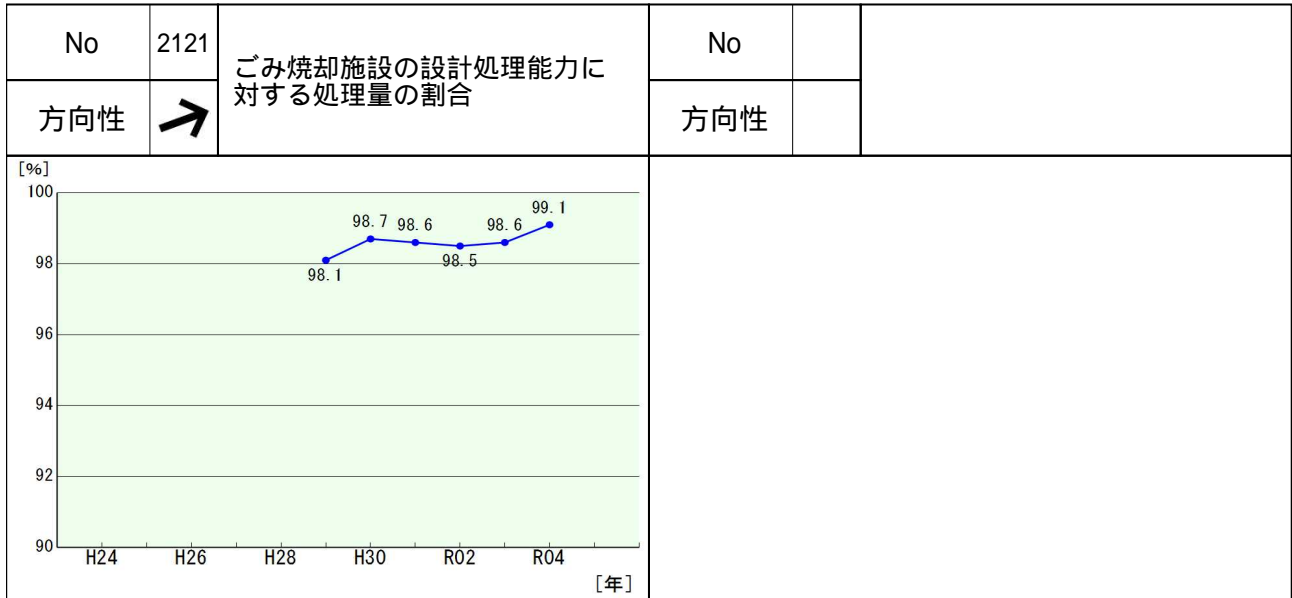
単位施策の評価

単位施策の成果動向は、順調と評価する。
 成果指標は、基準値から4指標のうち3指標が改善している。「市民一人当たりの家庭系ごみの排出量」は、基準値から92g向上しており、物価高やリユース市場の拡大の影響と考える。また、「この1年間で中古品の売買に関するアプリ等を利用したことがある人の割合」は、基準値から7.6ポイント向上しており、継続して実施している3Rの啓発活動による効果と考える。
 今後も引き続き、広報紙や生活情報アプリ「東海なび」等を活用し、ごみ減量と資源化の普及啓発活動を推進していく。

施策 21 ごみの減量化とリサイクルを推進する
 単位施策 02 ごみを適切に処分する

単位施策主管課【清掃センター】

成果指標の推移



No			No		
方向性			方向性		

単位施策の評価

単位施策の成果動向は、順調であると評価する。
 成果指標は、基準値から1.0ポイント向上しており、毎年98%以上の高い割合を継続維持できている。これは、ごみ焼却施設が稼働して28年を迎え、設備は老朽化しているものの、日常点検等の実施と計画的な補修ができてきていることによるものと考えられる。
 西知多クリーンセンターが稼働するまでの間、引き続き、日常点検等を継続して実施するとともに、点検を反映した補修計画を立案し、現在のごみ処理施設の安定稼働に取り組んでいく。

章 03 環境・市民生活
 節 03 防災
 施策 22 市民と市が一体となって災害に備える

理念 安心

施策主管課【防災危機管理課】

めざすまちの姿

市、関係機関、地域、NPOなどが連携し、災害時に機能できるように備えている

施策の基本方針（総合計画から抜粋）

「自らの命は自分で守る」自助の精神に立って、防災に対する正しい知識と危機意識を持ち、家庭、地域、学校、企業などにおいて、災害への備えを十分にしておくことが重要です。
 また、「自分たちのまちは自分たちで守る」ため、共助の精神を醸成し、地域による災害対応力の向上を図る必要があります。
 そのため、災害に強いまちづくりを目指して施設などの整備を進めるとともに、市民などの防災に関する取り組みの支援と防災体制の強化に努めます。

施策実現のための財源投入状況

（単位：千円）

単位施策名称		R04年度予算	R04年度決算
01	市民の防災力を向上させる	67,677	67,074
02	防災体制を強化する	230,210	120,739
03	地域と市の連携を強化する	2,693	2,641
施策合計		300,580	190,454

まちづくり指標の分析

No	0033	地域、市などが連携し、災害時に備えていると思う人の割合	No																								
方向性	➔		方向性																								
<table border="1"> <caption>まちづくり指標の分析データ</caption> <thead> <tr> <th>年</th> <th>割合 [%]</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H24</td><td>52</td></tr> <tr><td>H26</td><td>59.5</td></tr> <tr><td>H28</td><td>60.4</td></tr> <tr><td>H30</td><td>63.5</td></tr> <tr><td>R02</td><td>64.8</td></tr> <tr><td>R04</td><td>61.2</td></tr> <tr><td>R04</td><td>65.1</td></tr> <tr><td>R04</td><td>62.6</td></tr> <tr><td>R04</td><td>61.6</td></tr> <tr><td>R04</td><td>69</td></tr> </tbody> </table>						年	割合 [%]	H24	52	H26	59.5	H28	60.4	H30	63.5	R02	64.8	R04	61.2	R04	65.1	R04	62.6	R04	61.6	R04	69
年	割合 [%]																										
H24	52																										
H26	59.5																										
H28	60.4																										
H30	63.5																										
R02	64.8																										
R04	61.2																										
R04	65.1																										
R04	62.6																										
R04	61.6																										
R04	69																										
対基準値：9.6ポイント増 / 基準値からの推移： 10年後めざそう値達成率：56.5% 年齢別：差異無、職業別：差異無、地区別：差異有 要因：防災について関心が高まっていると想定。地区別では、浸水実績がある地区で関心が高い。																											

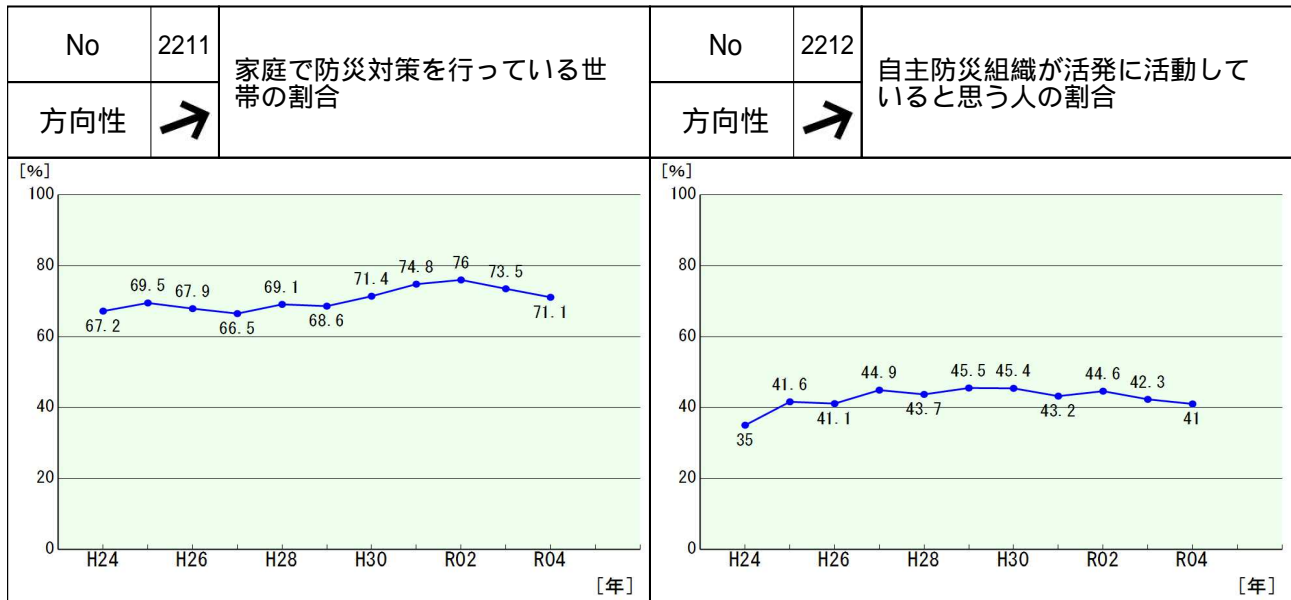
めざすまちの姿に向けた達成度及び施策の評価

施策の成果動向は、横ばいと評価する。
 まちづくり指標は、基準値から9.6ポイント向上しているが、近年の推移は横ばい傾向にある。これは、自主防災組織に対する補助事業や地域防災リーダー育成事業の進展、人命救助や避難所運営に必要な資機材をいざという時に取り扱うための訓練など、地域と市が連携して防災活動に取り組んでいる一方で、十分に市民の実感に繋がっていないことが要因と考える。
 今後は、地域での防災活動に対する支援・連携を強化するとともに、各家庭や地域での実践的な防災対策を行ってもらえるように、更新した防災ハンドブックをはじめ様々な情報発信を実施しながら、防災意識高揚のための啓発を進めていく。

施策 22 市民と市が一体となって災害に備える
 単位施策 01 市民の防災力を向上させる

単位施策主管課【防災危機管理課】

成果指標の推移



No			No		
方向性			方向性		

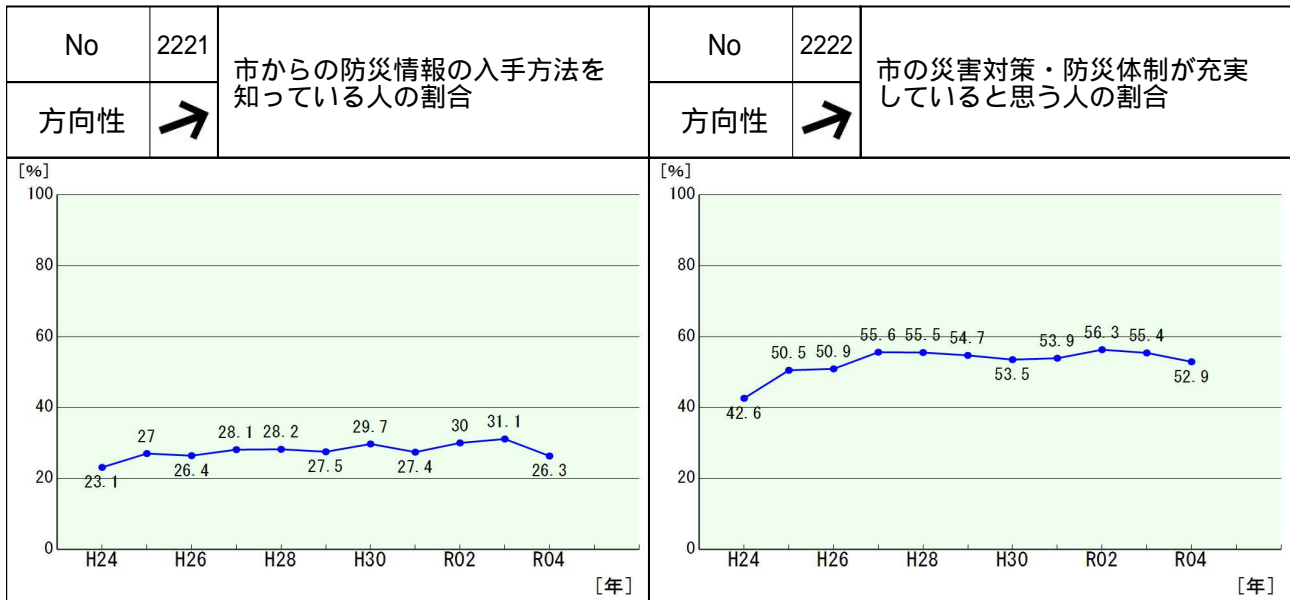
単位施策の評価

単位施策の成果動向は、横ばいと評価する。
 「家庭で防災対策を行っている世帯の割合」は、基準値から3.9ポイント向上しているが、前年度から2.4ポイント低下している。また、「自主防災組織が活発に活動していると思う人の割合」は、基準値から6.0ポイント向上しているが、前年度から1.3ポイント低下している。地域に根差した「地域防災リーダー育成事業」等の取り組みが継続実施できている一方で、各家庭一人ひとりに防災意識が浸透していないことが要因と考える。
 今後も防災活動に地域差が出ないように配慮しながら、地域防災力の向上を図るための訓練を推進していく。また、様々な情報発信媒体を活用し、市民一人ひとりへの啓発を進めていく。

施策 22 市民と市が一体となって災害に備える
 単位施策 02 防災体制を強化する

単位施策主管課【防災危機管理課】

成果指標の推移



No			No		
方向性			方向性		

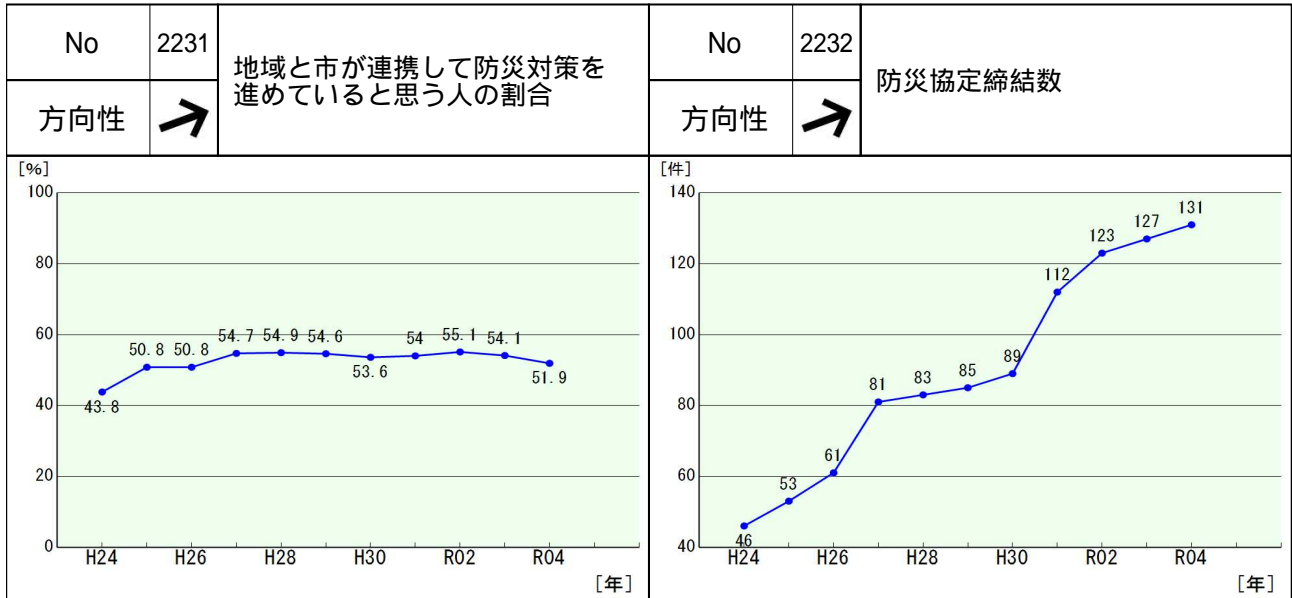
単位施策の評価

単位施策の成果動向は、順調と評価する。
 「市からの防災情報の入手方法を知っている人の割合」は、前年度から4.8ポイント低下しているものの、基準値から3.2ポイント向上しており、30～39歳及び40～49歳において順調に推移している。これは、メールマガジン等のインターネットやSNSを活用した情報発信が中年層に浸透してきたことによるものと考えられる。また、「市の災害対策・防災体制が充実していると思う人の割合」は、前年度から2.5ポイント低下したものの、基準値から10.3ポイント向上しており、施設等の耐震化や避難所等の整備が充実してきたことによるものと考えられる。
 今後も、SNS等の活用割合の低い中高年層を中心に防災情報に関する啓発を図っていく。

施策 22 市民と市が一体となって災害に備える
 単位施策 03 地域と市の連携を強化する

単位施策主管課【防災危機管理課】

成果指標の推移



No			No		
方向性			方向性		

単位施策の評価

単位施策の成果動向は、順調と評価する。
 「地域と市が連携して防災対策を進めていると思う人の割合」は、基準値から8.1ポイント向上している。その理由としては、市内に点在する避難所の防災用備蓄資機材を着実に整備してきたことによるものと考え、「防災協定締結数（令和元年度に消防関係など22件分を整理（整理後の基準値57件）」は、前年度から主に災害救助に必要な物資の調達に関する協定など4件増加しており、災害時に必要な支援の確保が着実にできていると考える。
 今後も、地域防災訓練などの支援に努め、特に指標数値の低い地域において重点的に連携強化を図っていく。

章 03 環境・市民生活
 節 04 交通安全・防犯

理念 安心

施策 23 交通事故や犯罪のない安全で安心なまちをつくる

施策主管課【交通防犯課】

めざすまちの姿

関係機関と地域が連携し、交通事故や犯罪を防いでいる

施策の基本方針（総合計画から抜粋）

警察、事業者などの関係機関や地域と連携して、交通安全・防犯対策を積極的に展開することにより、交通事故や犯罪発生件数を減少させます。

施策実現のための財源投入状況

（単位：千円）

単位施策名称		R04年度予算	R04年度決算
01	交通安全対策を充実させる	69,776	60,788
02	防犯対策を充実させる	65,719	63,258
施策合計		135,495	124,046

まちづくり指標の分析

No	0034	交通事故や犯罪の不安がなく、安全に安心して生活できていると思う人の割合	No																												
方向性	➔		方向性																												
<table border="1"> <caption>交通事故や犯罪の不安がなく、安全に安心して生活できていると思う人の割合 [%]</caption> <thead> <tr> <th>年</th> <th>割合 [%]</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H24</td><td>24.2</td></tr> <tr><td>H25</td><td>26.4</td></tr> <tr><td>H26</td><td>25.6</td></tr> <tr><td>H27</td><td>26.7</td></tr> <tr><td>H28</td><td>25.6</td></tr> <tr><td>H29</td><td>27.4</td></tr> <tr><td>H30</td><td>30.3</td></tr> <tr><td>R01</td><td>27</td></tr> <tr><td>R02</td><td>31.5</td></tr> <tr><td>R03</td><td>30.5</td></tr> <tr><td>R04</td><td>33.7</td></tr> <tr><td>目標 (R04)</td><td>30</td></tr> </tbody> </table>			年	割合 [%]	H24	24.2	H25	26.4	H26	25.6	H27	26.7	H28	25.6	H29	27.4	H30	30.3	R01	27	R02	31.5	R03	30.5	R04	33.7	目標 (R04)	30			
年	割合 [%]																														
H24	24.2																														
H25	26.4																														
H26	25.6																														
H27	26.7																														
H28	25.6																														
H29	27.4																														
H30	30.3																														
R01	27																														
R02	31.5																														
R03	30.5																														
R04	33.7																														
目標 (R04)	30																														
<p>対基準値：9.3ポイント増 / 基準値からの推移： 10年後めざそう値達成率：160.3% 年齢別：差異有、職業別：差異有、地区別：差異有 要因：交通、防犯環境は生活に密着した身近な関心事となっており、特に高齢者の割合が高い。</p>																															

めざすまちの姿に向けた達成度及び施策の評価

施策の成果動向は、順調と評価する。

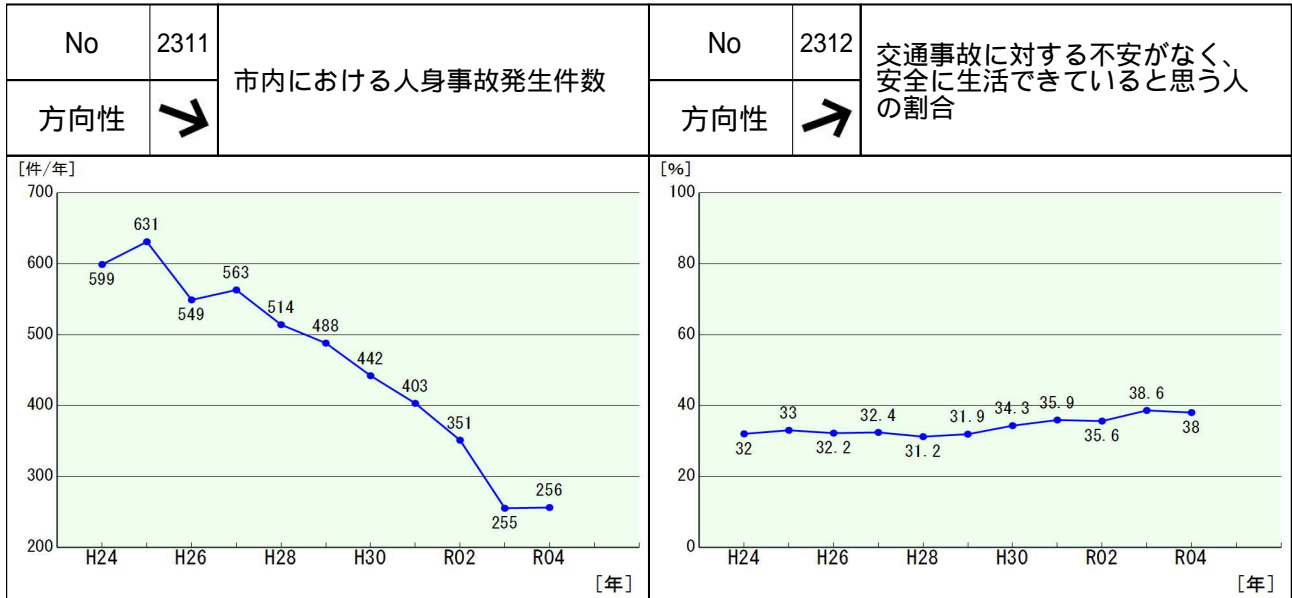
成果指標では、「人身事故発生件数」、「犯罪発生件数」が基準値と比べ大幅に改善している。交通安全対策では、交通取り締まりの強化、安全運転支援装置搭載車の普及、高齢運転者の免許返納促進などが効果を上げていると考える。防犯対策では、市内全域の防犯灯LED化や、防犯カメラの増設など、行政、警察、地域が一体となった犯罪抑止策の強化が、侵入盗等の大幅な減少という成果を上げていると考える。

近年、強盗被害・特殊詐欺など全国的に犯罪が凶悪化・多様化していることから、被害防止対策として防犯用具購入費に対して補助金を交付するなど、市民の防犯意識を高めていく。

施策 23 交通事故や犯罪のない安全で安心なまちをつくる
 単位施策 01 交通安全対策を充実させる

単位施策主管課【交通防犯課】

成果指標の推移



No			No		
方向性			方向性		

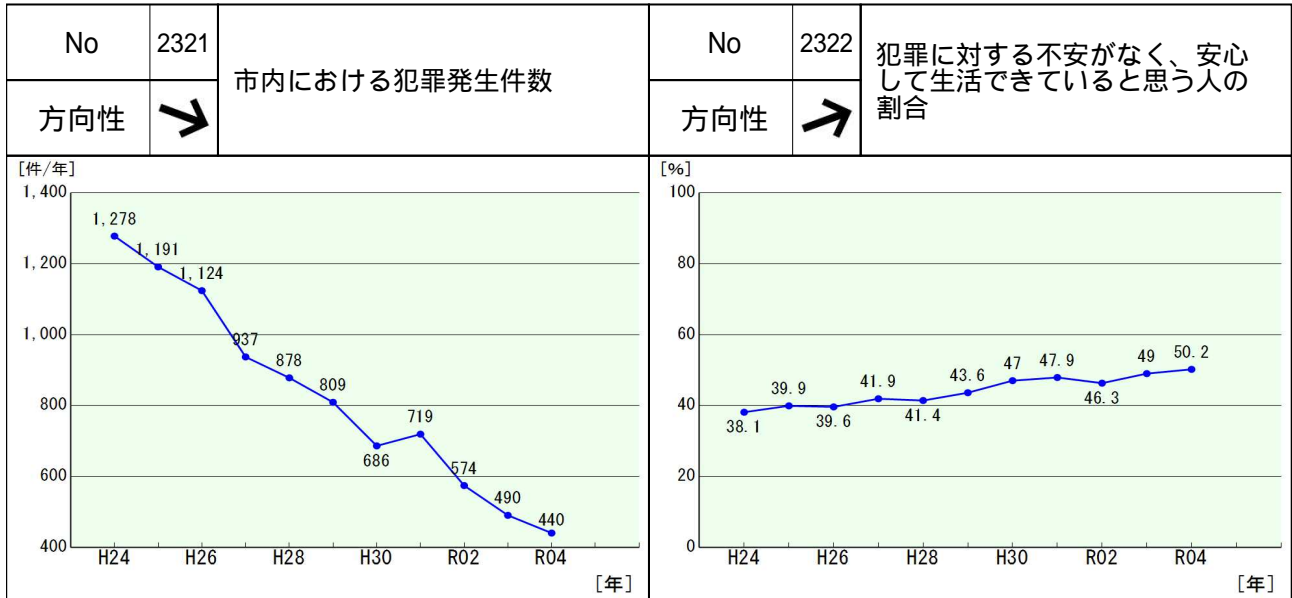
単位施策の評価

単位施策の成果動向は、順調と評価する。
 「人身事故発生件数」は基準値と比べ大幅に改善している。また「交通事故に対する不安がなく、安全に生活できていると思う人の割合」については基準値と比べ6.0ポイント向上している。近年、安全運転支援装置搭載車両の普及が進んでいること、また、生活道路等において路面標示や標識・看板などの設置が進んでいること、運転免許証自主返納制度が認知されてきたこと等が指標改善に寄与していると考えられる。
 今後は、高齢運転者による交通事故の低減に向けた取り組みや、近年増加傾向にある自転車事故への対策として、自転車利用者の法令遵守の意識向上に取り組んでいく。

施策 23 交通事故や犯罪のない安全で安心なまちをつくる
 単位施策 02 防犯対策を充実させる

単位施策主管課【交通防犯課】

成果指標の推移



No			No		
方向性			方向性		

単位施策の評価

単位施策の成果動向は、順調と評価する。
 「犯罪発生件数」は基準値、前年度ともに大幅に改善され、「犯罪に対する不安がなく、安心して生活できていると思う人の割合」についても基準値と比べ12.1ポイント向上している。中でも、侵入盗や特殊詐欺、重点罪種以外の犯罪については、減少傾向が続いている。
 自動車盗や侵入盗への被害防止対策として、警察によるパトロール強化に加え、市民各々が防犯対策に積極的に取り組むことが重要であるため、防犯用具購入費に対して補助金を交付し、地域の防犯力を高め、犯罪発生件数の更なる減少を図っていく。

章 03 環境・市民生活
 節 05 消防・救急
 施策 24 消防・救急体制を充実させる

理念 安心

施策主管課【消防本部】

めざすまちの姿

消防・救急体制が整っている

施策の基本方針（総合計画から抜粋）

火災などの災害から市民の生命と財産を守るため、消防体制を強化するとともに、施設などの防火体制の強化や地域全体で火災予防を進めます。また、傷病者の救命率を高めるため、救急体制を強化するとともに、救命技術の普及・啓発を行います。

施策実現のための財源投入状況

（単位：千円）

単位施策名称		R04年度予算	R04年度決算
01	消防・防火体制を強化する	260,984	221,810
02	救急・救命体制を強化する	13,388	13,068
	施策合計	274,372	234,878

まちづくり指標の分析

No	0035	消防・救急体制が整っていると思う人の割合	No															
方向性	➔		方向性															
<table border="1"> <caption>消防・救急体制が整っていると思う人の割合の推移</caption> <thead> <tr> <th>年</th> <th>割合 [%]</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H24</td><td>76.6</td></tr> <tr><td>H26</td><td>78.3</td></tr> <tr><td>H28</td><td>81.3</td></tr> <tr><td>H30</td><td>81.3</td></tr> <tr><td>R02</td><td>83</td></tr> <tr><td>R04</td><td>84</td></tr> </tbody> </table>					年	割合 [%]	H24	76.6	H26	78.3	H28	81.3	H30	81.3	R02	83	R04	84
年	割合 [%]																	
H24	76.6																	
H26	78.3																	
H28	81.3																	
H30	81.3																	
R02	83																	
R04	84																	
対基準値：4.9ポイント増 / 基準値からの推移： 10年後めざす値達成率：66.2% 年齢別：差異有、職業別：差異有、地区別：差異有 要因：65歳以上の住宅用火災警報器設置率が低い。一方、共同購入事業を実施した地区が高い。																		

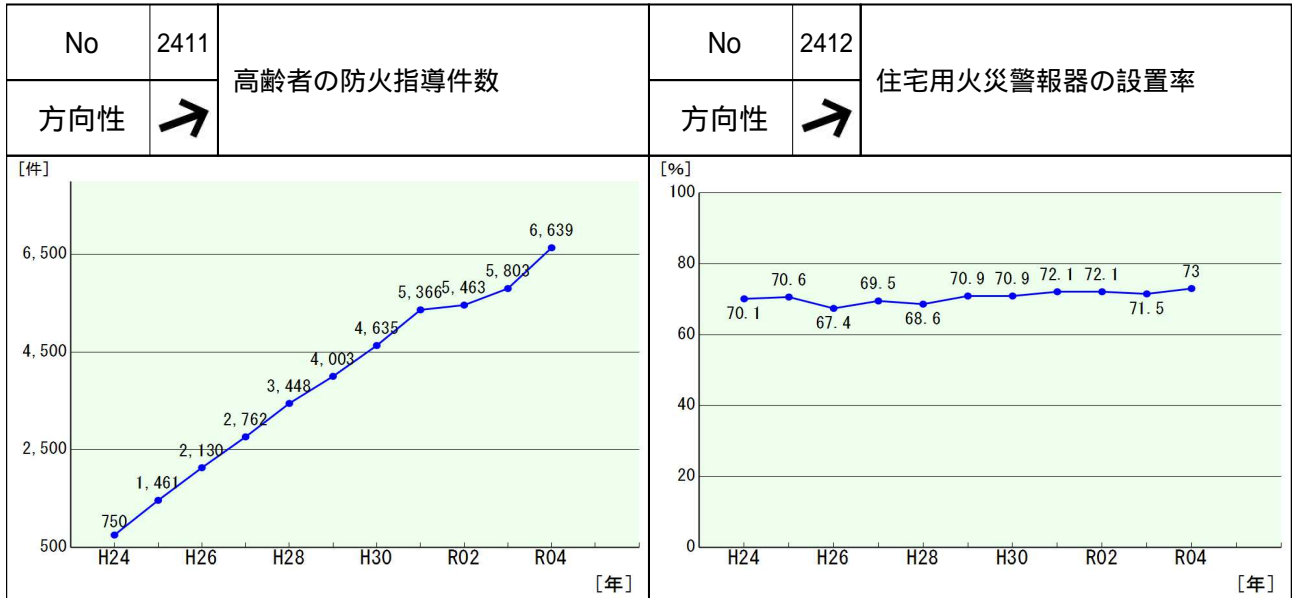
めざすまちの姿に向けた達成度及び施策の評価

施策の成果動向は、順調と評価する。
 まちづくり指標は、基準値から6.4ポイント改善している。成果指標のうち、基準値から低下した1指標は、救急出動の増加に対応するため救急救命士を分散配置したことが要因と考える。一方で、3指標が基準値から改善していることから、市民の実感につながっていると考える。
 今後も引き続き、消防・救急体制を充実させるため、救急救命士養成計画に基づき救急救命士の確保に努めるとともに、高齢者の防火指導及び住宅用火災警報器設置率の向上に取り組んでいく。

施策 24 消防・救急体制を充実させる
 単位施策 01 消防・防火体制を強化する

単位施策主管課【消防本部】

成果指標の推移



No		No	
方向性		方向性	

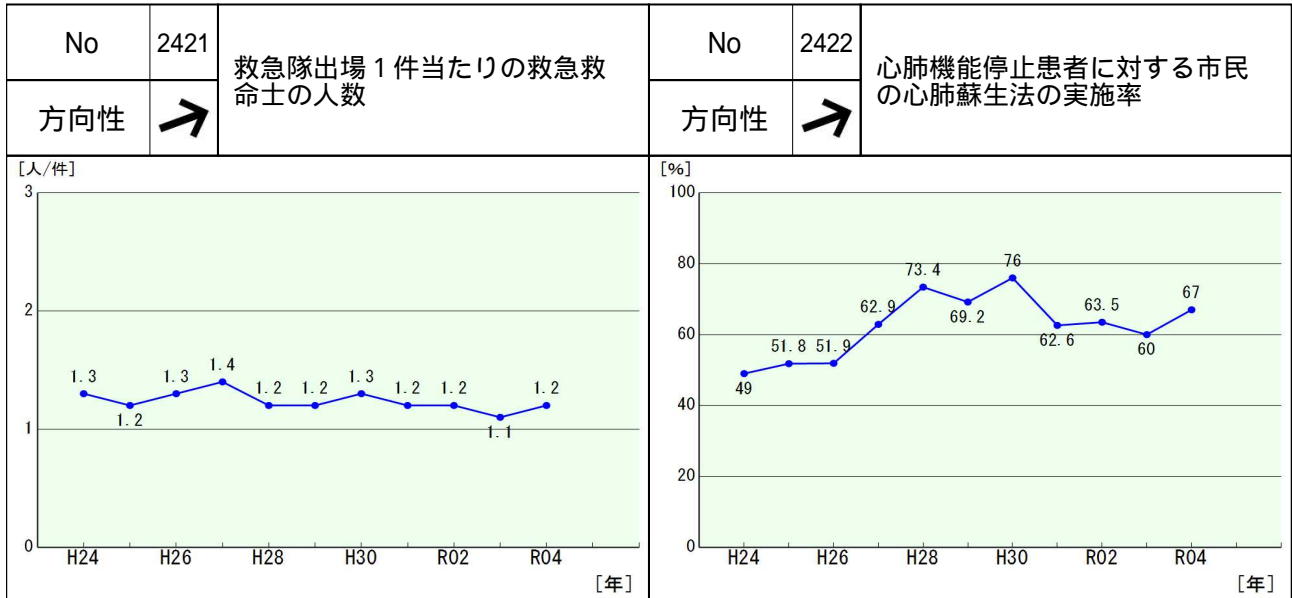
単位施策の評価

単位施策の成果動向は、順調と評価する。
 「高齢者の防火指導件数」は、町別・小学校区毎に実施しており、新型コロナウイルス感染症の影響も薄れたことで、令和4年度は通常どおり実施し、コロナ禍以前の水準に回復した。「住宅用火災警報器の設置率」は基準値から2.9ポイント向上した。
 今後も、高齢者の防火指導とともに住宅用火災警報器設置率向上のため、コミュニティと連携し啓発活動を行うとともに、共同購入事業に加え取り付け支援を継続していく。また、設置から経年した機器の更新や電池交換等の維持管理についても併せてPRを行っていく。

施策 24 消防・救急体制を充実させる
 単位施策 02 救急・救命体制を強化する

単位施策主管課【消防本部】

成果指標の推移



No			No		
方向性			方向性		

単位施策の評価

単位施策の成果動向は、順調と評価する。
 「救急隊出場1件当たりの救急救命士の人数」は、救急救命士の総数が増員したことで、前年度から0.1ポイント増加した。「心肺機能停止患者に対する市民の心肺蘇生法の実施率」は、基準値から18ポイント増加した。
 今後も救急救命士の育成を計画的に進め、救急件数増加に対応するとともに、市民への心肺蘇生法の普及啓発を継続して推進していく。